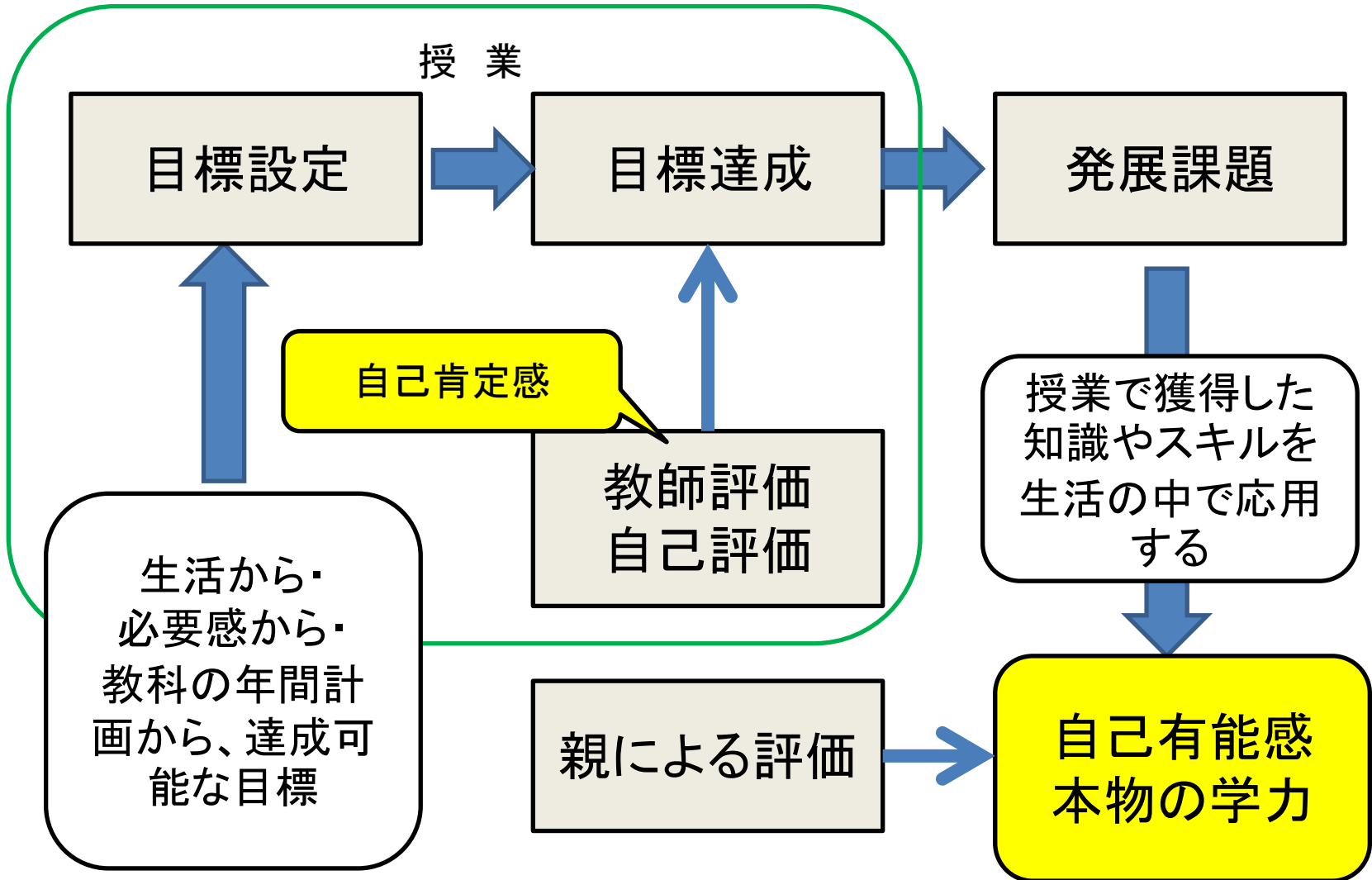


知的障害や発達障害のある
児童生徒を対象とした
自己肯定感を育てる授業

新潟大学教職大学院

長澤正樹

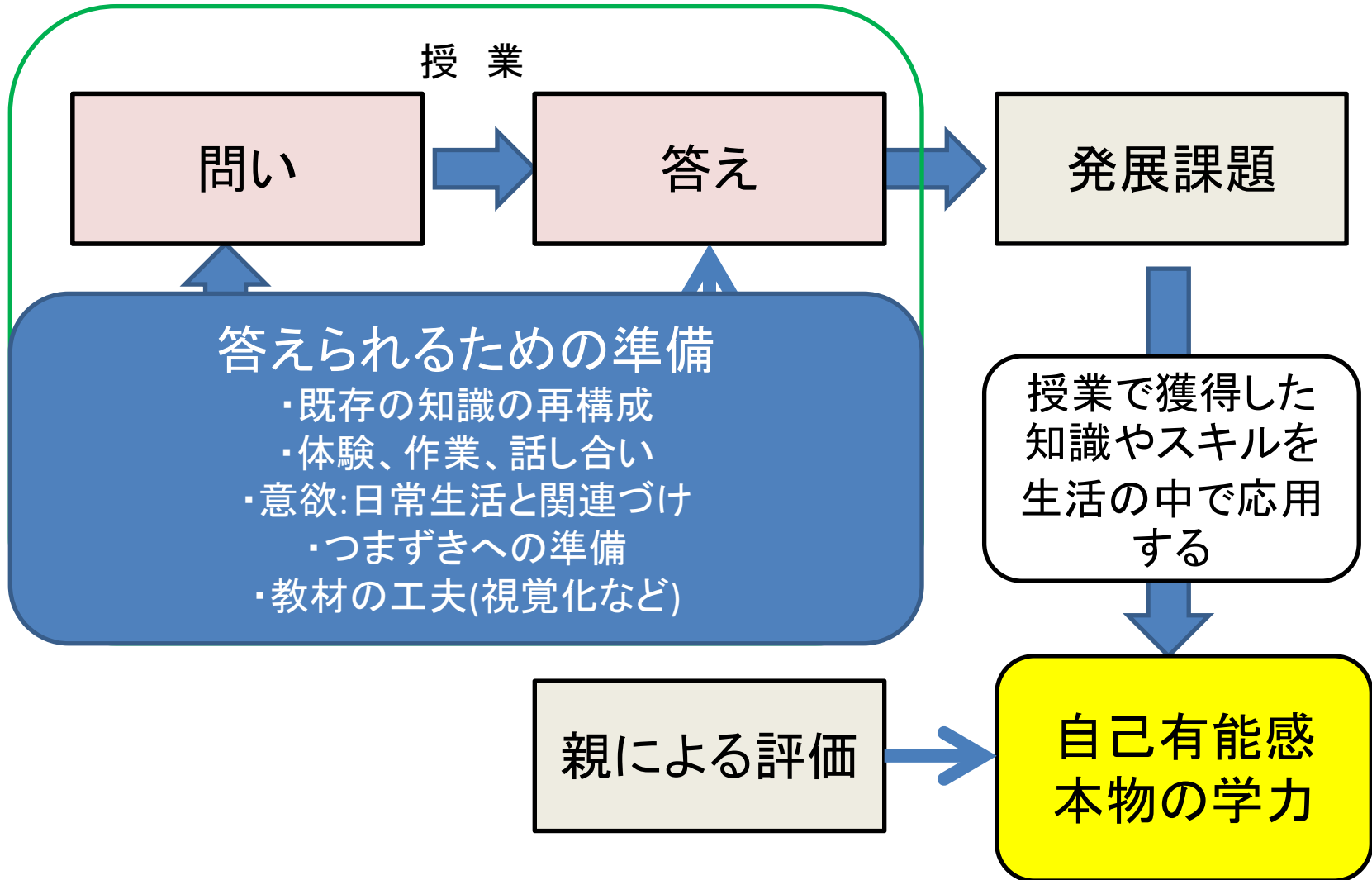
自己肯定感を育てる授業(教科学習)



解説

1. 児童生徒の実態や年計から目標設定
2. 授業の最初に具体的な達成目標を提示
3. 授業の最後にできたことを評価し、自己肯定感を育てる
4. 同レベルの発展課題を提示し、家庭で実行
5. 親からできたことを評価してもらい、自己有能感を育てる

授業の構成



解説

1. 目標を「問い」の形式に具体化する
2. 「問い」に答えられるように授業を構成する
 - 既存の知識の再構成
 - 体験、作業、話し合い
 - 意欲:日常生活と関連づけ
 - つまづきへの準備
 - 教材の工夫(視覚化など)
3. 児童生徒一人一人が「問い」に「答え」る

授業に自己決定を取り入れる

- 対話(教師と生徒、生徒同士)



- 気づきを促す(①問題意識、③変化)



- 自覚(②目標、④成長)

対話を通しての主体的な学び

解説

1. 対話を通して解決課題の気づきを促す
2. 気づきから、解決への意欲と目標を自覚する
3. 実行し、解決に向かっている(解決する)ことに気づく
4. 結果から、自身の成長を自覚する